

平成17年度 次世代育成支援対策交付金事業の評価及び改善に関する報告書

秋田県大館市市民部福祉課

事業名	I 育児支援家庭訪問事業
事業内容	関係機関等からの情報収集等により把握した養育困難家庭で養育支援の必要性があると判断したものに対し、保健師等による具体的な育児支援に関する技術的援助を訪問により実施する事業
実施施設	保健センター
H17年度計画	訪問家庭 55か所 訪問件数 60件
H17年度実績	〃 44か所 〃 51件
評価結果	<p>ハイリスク妊婦や、育児不安の強い親子、養育不安な家庭等へ早期に関わることで、虐待の予防や自信を持って育児に取り組めるように支援できた。里帰り出産などで連絡がつかない対象者もあり、計画数については若干下回ったが、支援については概ね対応できたものと思われる。</p> <p>18年度においても医療機関からハイリスク妊産婦等の情報提供を受け、訪問指導を実施している。また福祉、保健の関係者で定期的に検討会議を開催しており、情報の収集、伝達等順調に機能しているので、今後も継続して連携を図って参りたい。</p>
改善点等	連絡がつかない対象者や訪問を拒否する家庭等がいたことから、定期健診等の機会も活用し、生後4か月未満までに対象家庭・乳児等の状況把握に努め、指導の徹底を図る。

事業名	II 子育て短期支援事業（トワイライトステイ）
事業内容	保護者が仕事その他の理由により平日の夜間又は休日に不在となり家庭において児童を養育することが困難となった場合その他の緊急の場合において、その児童を実施施設において保護し、生活指導、食事の提供等を行う事業
実施施設	白百合ホーム（母子生活支援施設）
H17年度計画	<p>開所時間 夜間養護基本分 児童の下校等の時間～22時 休日預かり分 8時30分～22時</p> <p>夜間養護基本分 1820人／年 休日預かり分 660人／年</p>
H17年度実績	<p>夜間養護基本分 2249人／年 休日預かり分 586人／年</p>
評価結果	<p>保護者の就労等に伴い、平日の夜間及び休日等において養育が困難な児童について、実施施設で預かることにより、当該保育需要に対応することができた。事業周知等も適切に図られ、利用実績が事業計画の利用予定を上回るすることができた。特にひとり親家庭の利用率は高く、順調に活用され、効果があったものと思われる。</p> <p>18年度においても実施施設や関係機関等による事業の周知、情報提供が順調に行われているので、今後も継続して連携を図って参りたい。</p>
改善点等	利用できなかった等苦情もなく、保護者の需要に応えられていると思われることから、継続して実施して参りたい。

事業名	Ⅲ 延長保育促進事業（延長保育事業及び延長保育推進事業（民間）分）
事業内容	就労形態の多様化等に伴う延長保育の需要に対応するため、保育所の開所時間を越えた保育を行う事業
実施施設	①扇田保育園（公立） ②たしろ保育園（公立） ③大館乳児保育園（民間）
H17年度計画	<p>① 扇田保育園（公立） 開所時間（延長分含む） 7時30分～19時 （うち延長開所時間 18時30分～19時（後30分延長）） 平成17年度計画 平均対象児童数 2名</p> <p>② たしろ保育園（公立） 開所時間（延長分含む） 7時～19時 （うち延長開所時間 7時～8時（前1時間延長）） 平成17年度計画 平均対象児童数 18名</p> <p>③ 大館乳児保育園（民間） 開所時間（延長分含む） 7時～19時 （うち延長開所時間 18時～19時（後1時間延長）） 平成17年度計画 平均対象児童数 6名</p>
H17年度実績	<p>① 扇田保育園（公立） 平成17年度実績 平均対象児童数 1名（延利用児童数 89名）</p> <p>② たしろ保育園（公立） 平成17年度実績 平均対象児童数 18名（延利用児童数4245名）</p> <p>③ 大館乳児保育園（民間） 平成17年度実績 平均対象児童数 7名（延利用児童数1063名）</p>
評価結果	<p>各施設において開所時間の前後の延長を行うことにより、保護者の就労等に伴う延長保育の需要に対応することができた。対象児童数についても概ね計画どおりであり、利用できなかった等の苦情もなく順調に実施できたと思われる。特に朝の前延長実施施設は、保護者の出勤時間等の都合等から需要が高く、かつそれに応えることができたと思われる。</p> <p>実施施設と保護者との間の利用に関する協力も良好であり、行政との連携についても、公立保育所については、事業実施に対応可能な職員配置がされているので、引き続き連携して継続実施できるよう努めて参りたい。</p>
改善点等	入園希望の理由として、延長保育を実施している施設であるからという場合が多く、保護者の需要に応えられていると思われることから、継続して実施して参りたい。

事業名	IV 乳幼児健康支援一時預かり事業（病後児保育：施設型）
事業内容	現に保育所に通所中の児童等が病気の「回復期」であり、集団保育の困難な期間、当該児童を保育所、病院等に付設された専用スペースにおいて一時的に預かる事業
実施施設	大館乳児保育園病後児保育室
H17年度計画	開所時間 8時～18時 平成17年度計画 40人／年
H17年度実績	平成17年度実績 58人／年
評価結果	<p>病気回復期で集団保育が困難な期間、当該児童を預かることにより、病後児保育の需要に対応することができた。事業周知・利用手続き等についても関係機関等の協力により適切に行え、利用児童数についても、事業計画の見込みを上回ることもできた。</p> <p>地元医師会及び各医院の協力により、利用の際の診断書等の交付も比較的スムーズに行うことができた。今後も引き続き協力を要請し、利用者の利便の向上に努めたい。</p>
改善点等	特に苦情等もなく保護者の需要に応えられていると思われることから、継続して実施し、利用促進を図って参りたい。

事業名	V へき地保育の推進（へき地保育所）
事業内容	交通条件及び自然的、経済的、文化的諸条件に恵まれない山間地、開拓地、離島等のへき地における保育を要する児童に対し、必要な保護を行う事業
実施施設	へき地保育所
H17年度計画	施設（へき地保育所）数 10か所 （葛原、二井田、真中、下川沿、沼館、花岡、矢立、長木、雪沢、大葛） （うち交付金対象（平均利用児童数10人以上）施設 葛原、雪沢除く8か所）
H17年度実績	平成18年3月31日現在 入所児童数 339名 （うち交付金対象施設 入所児童数 319名） 1日あたり平均利用児童数 251人 （うち交付金対象施設 平均利用児童数 236名）
評価結果	<p>既存認可保育所から距離があり、通所等が不便・困難な地区におけるへき地保育所の設置・運営を行ったことにより、当該地区の要保育児童の保育に対応することができた。運営についても特に問題なく、事業計画どおり実施できたものと思われる。</p> <p>児童の送迎や保育中の児童に関する連絡等、保護者の協力により概ね順調に対応できた。また、近隣住人の協力により施設内外の行事等を効果的に進めることができた。今後も引き続き協力を要請し、連携を図って参りたい。</p>
改善点等	既存認可保育所等での対応が困難な地区を補完していることから、今後も引き続き実施して参りたい。

事業名	VI その他事業（保育所地域活動事業、虐待防止協議会開催）
事業内容	<p>①保育所地域活動事業 保育所の有する専門的機能を地域住民のために積極的に活用し、世代間交流、異年齢児交流、育児講座等、地域の需要に応じた活動を行う事業</p> <p>②虐待防止協議会開催 児童虐待の早期発見・早期対応及び共通認識を深めるため、地域関係機関相互の情報交換を密にし、地域の児童虐待のための啓発活動と、迅速で的確な援助活動ができる体制を整備する事業</p>
実施施設	保育園
H17年度計画	公立 8か所、私立1か所で事業計画
H17年度実績	<p>①9カ所で実施 世代間交流事業（老人福祉施設訪問、祖父母交流会 等） 異年齢児交流事業（小中学生との交流会、保育園卒園児訪問、夕涼み会、学区内運動会 等） 育児講座</p> <p>②平成18年2月13日 大館市虐待防止協議会開催 出席者（協議会委員名） 人権擁護委員、主任児童委員連絡会、私立幼稚園協議会、北児童相談所、警察署生活安全課、保健センター、認可保育園、福祉課、総合支所福祉環境課</p>
評価結果	<p>①保育所のもつ機能を地域住民のために積極的に活用し、世代間交流、異年齢児交流、育児講座等、地域に根ざした各種活動を実施したことにより、地域及び保護者等の需要に対応することができた。特に老人福祉施設訪問等の世代間交流については、祖父母世代に喜ばれ、今後についても継続すべき事業と思われる。</p> <p>地域の関係施設、保護者との連携は概ね良いと思われるが、行政とは予算等十分な課題共有、連携に至っていない。行政側の理解、また保育園側の積極的な情報提供も必要であると思われるため改善にむけて検討して参りたい。</p> <p>②児童の虐待防止や早期発見に関して、関係機関による会議を開催し、関係機関相互の情報交換や状況把握、関連事業等実施にあたっての連携を図ったことにより、地域における児童の虐待防止や早期発見のための基盤整備を行うことができた。</p> <p>福祉や保健、主任児童委員、保育所、幼稚園、人権擁護関係者等、関連機関間の情報交換や状況把握、関連機関相互の事業等の連携を図ることができた。 今後も引き続き連携を図って参りたい。</p>
改善点等	<p>①地域の需要に応えられていると思われることから、今後も継続して実施して参りたい。</p> <p>②新年度については、さらに多方面からの委員を選出し、虐待のみならず、要保護児童も対象とした地域協議会に発展させる予定である。</p>